

令和8年一級建築士学科試験 合格推定点と講評

講師の井澤です。

昨日の一級建築士学科試験を受験された皆さん、本当にお疲れ様でした。

- ・学科試験当日 20 時から始めた「井澤ひとり感想戦」をまだご覧になっていない方がいればぜひご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=bgd32cGBGIE>

- ・試験機関から正答番号が発表されました。TACの発表と完全一致です。

<https://www.jaeic.or.jp/shiken/1k/result/academic/answer-2026.html>

I. TAC合格推定点

TACの合格推定点は次のとおりです。

■総得点

94 点

■科目基準点

計画 11 点、環境 11 点、法規 16 点、構造 16 点、施工 13 点

- ・上記は、TACが独自に集計しているデータリサーチを基に推定したものです。
- ・上記の合格推定点にわずかに達しない方については、学科試験に合格した後、5回のうち任意の3回の設計製図試験を受験できることを踏まえて、合格に自信が持てず中途半端な気持ちで設計製図試験対策を始めるよりは、9月2日の学科試験の合格発表を待つて、めでたく合格された際に翌年の設計製図試験に向けて課題発表前の早期から対策を始めるという選択肢もありますので、ご検討ください。
- ・また、次の制度もご確認ください。

TAC設計製図本科生特別返金制度

令和8年学科試験の合格発表日（9/2 予定）から3日以内（9/5 まで）の解約申し入れにつきましては、TACが公表した合格推定点（94 点）から2点以内、つまり **92 点以上で不合格** の場合はお支払いの設計製図本科生受講料から¥30,000 を除き返金します（入会金は除く）。

Ⅱ. 講評

難易度は次のとおりです。

【全体】 易しい

- ・計画 例年並み
- ・環境 例年並み
- ・法規 易しい
- ・構造 例年並み
- ・施工 易しい

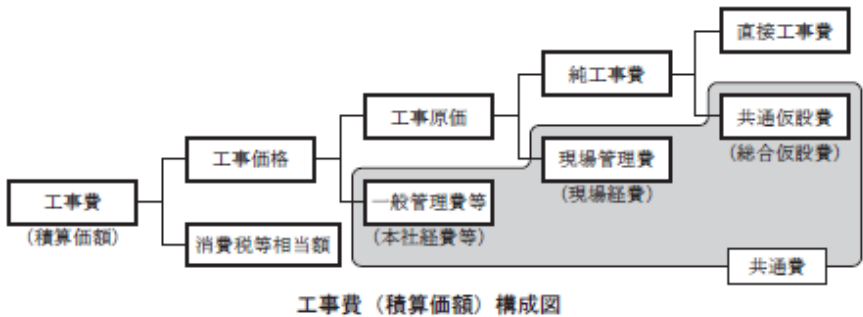
- ・全体的に過去問の比率が高かったことが易しい結果となった要因です。
- ・過去問で確実に得点する上で大事なことは「理解」と「暗記」の両輪です。
- ・「理解系科目である環境、法規、構造が得意だけど、暗記系科目である計画、施工が苦手」という方、又はその逆という方が多いですが、「理解」と「暗記」のバランスを意識すると苦手科目の克服が可能です。
- ・TACでは「**徹底理解主義**」を掲げるとともに、暗記について「**ゴロあわせ集**」（外部販売も行いました）やテキストの「**付録**」を作成し、両輪で高得点を取れる対策が功を奏しました！
- ・「**ゴロあわせ集**」は全部でなんと24問もズバリ的中しています！
- ・これは「**少しでもラクに合格して欲しい！**」という受講生に寄り添うTACの気持ちの現れです。
- ・以下、ズバリ的中した「ゴロあわせ集」のほんの一例を紹介します。

〔計画 No. 11（都市公園）正答肢〕

近隣公園 2 ha 500m 10～50ha 5 0 ha以上
『近隣の庭へGO』『総合(とうごう)公園』『広域(ごういき)公園』
テキスト P245

〔計画 No. 19（工事費の構成）正答肢〕

純工事費＋現場管理費＝工事原価
『じゅんこと玄関でけんか』
純工事費＝直接工事費＋共通仮設費
『じゅんこは直接強化』
テキスト P317



〔環境・設備 No. 18 肢 3（屋外消火栓）正答肢〕

メゾネット 4 0 m 屋外消火栓 非常用の進入口
『メソメソ してないで屋外から 入りなさい』

メゾネットの歩行距離	40m以下	令120条 4 項
非常用の進入口の間隔	間隔40m以下ごと	令126条の 7
屋外消火栓の警戒区域半径	40m以下	消防法施行令19条 3 項一号

テキスト P340

〔構造 No. 28 肢 1（コンクリートのせん断弾性係数）〕

せん断弾性係数 ヤング係数の0.4倍
『先生は ヤングの 天使』
テキスト P203

〔施工 No. 23 肢 3（既存埋込みインサートの引張試験）正答肢〕

インサート 3 か所400N
『コンサートの参加はフォーマルで』
テキスト P434

計画

〔全般〕建築業界としての重要課題である技術者倫理（No. 1）、木造建築物（No. 5）、環境配慮（No. 6）、高齢者配慮（No. 9）、建築物の保存再生（No. 17）などを意識した出題が目立ちました。

〔実例建築物の出題〕

- ・建築史、実例建築物から3問の出題でした。この少なさが計画の難易度が例年並みとなった大きな要因の一つです。
- ・そしてTACでは、**タイパを重視**した実例建築物対策として「**令和8年 やまかけ！ 実例建築物・建築作品・建築史 厳選 92 件テスト**」（外部販売も行いました）を作成し、何百とある過去問の実例建築物の中から令和8年向けの出題予想として92件を厳選し、なんと**本試験3問12設問肢の中でロビー邸、シュレーダー邸、サヴォア邸、円覚寺舍利殿、アートプラザ、倉敷アイビースクエアの6つもズバリの中**という分析力の高さを示すことができました。
- ・また、No. 17 肢3の「香川県庁舎旧本館・東館」は、**公開模試** 計画 No. 3 肢4で**ズバリの中**です！ 丹下健三氏の設計で戦後の現役庁舎で全国で初めて国の重要文化財に指定されたことで出題が予想されたのです。

環境・設備

〔全般〕新規テーマはNo. 20 肢4のESG不動産投資ぐらいです。これが環境・設備の難易度が例年並みとなった大きな要因の一つです。

〔図表・計算問題〕

- ・No. 3の必要換気量の計算問題、No. 4の外壁内部の温度分布は過去問の定番ですので得点できなければいけません。
- ・No. 12の空調設備の略図は難問です。正答は4です。全熱交換器は室内からの還気と外気との間で温度、湿度を回収するため、還気の計測のための温湿度センサーは設問図中のTH②ではなくTH①です。

〔No. 11 肢1〕「精密機器工場に、温度と湿度を常に一定に保持することができる放射冷房方式を採用した。」という誤肢ですが、過去問に「一般的な事務所ビルの執務空間における天井放射冷房は、潜熱処理を主な目的として用いられる。」という誤肢があります。放射冷房は潜熱処理、つまり湿度処理はできないのです。この例が**過去問への向き合い方**を考える一番の好例です。**過去問を深掘りして深く理解することでこのような応用問題を解けるようになるのです。**

法規

- ・告示の出題が増えているとはいえ、正答肢が見付けやすかったことが易しい結果となった要因です。
- ・容積率、高さ制限も基本的な標準問題でした。

〔告示〕

- ・ **告示からの本格的な出題**が始まったという印象を受けます。
- ・ ただし、告示は難解なものではありません。
- ・ No. 7 肢 1 の「1 時間耐火構造の柱」の仕様は、法 2 条七号から H12 告示 1399 号に飛び、第 1 の壁、第 2 の「柱」と順に確認し、一号の 3 時間、二号の 2 時間、三号の 1.5 時間、四号の「1 時間」と順に確認すればすぐに「へ」にたどり着きます。TAC 線引き集では「木材」に目立つアンダーラインもしています。
- ・ No. 8 肢 1 の準不燃材料、難燃材料はもっと簡単です。
- ・ **「告示は捨て」と割り切ることは本当にもったいないことです。**
- ・ TAC では **告示出題予想講座** で必要十分な対策を立てました。

〔法改正〕

- ・ No. 25 バリアフリー法から 2 肢、法改正の内容が出題されています。肢 2 は不特定多数の者が利用する便所、車椅子使用者用便房の数、肢 4 は客席の車椅子使用者用部分の数です。
- ・ TAC では **法改正出題予想講座** で必要十分な対策を立てました。

〔融合問題〕

- ・ 融合問題が No. 27、28、29 と 3 問出題されました。
与えられた【条件】の中から設問肢に関わるものを見極める力が求められます。それを見極められるのが実務上も必要な本来の力です。それは**過去問を通して条文の意味を理解する積み重ね**で養われるものです。テクニックとしては、4 肢の中で分かりやすそうな問題から調べていくのが有効です。

〔時間短縮テクニック〕

- ・ 告示の出題や融合問題が増えると時間短縮が極めて重要になります。
次のような法規の**時間短縮テクニック**が必須です。
 - ・ 正答番号が確定した時点でそれ以降の選択肢は見ずに次の問題に移る。
 - ・ 正答番号が確定できなければ選択肢を 1 肢ごとに法令集で調べず、まずはそれ以降の選択肢も一通り見て、第一候補、第二候補まで法令集で調べて、それ以降は時間をかけない。

〔タイムトライアルの実践訓練の繰り返し〕

- ・ 上記の時間テクニックとともに、タイムトライアルの実践訓練の繰り返しが欠かせません。
- ・ TAC では、法規講義を GW 前に終了した後、法規特訓テスト 3 回、公開模試、直前模試 4 回、年度別問題集 7 年分を徹底的に繰り返し、実践訓練を重ねて本番に臨みます。

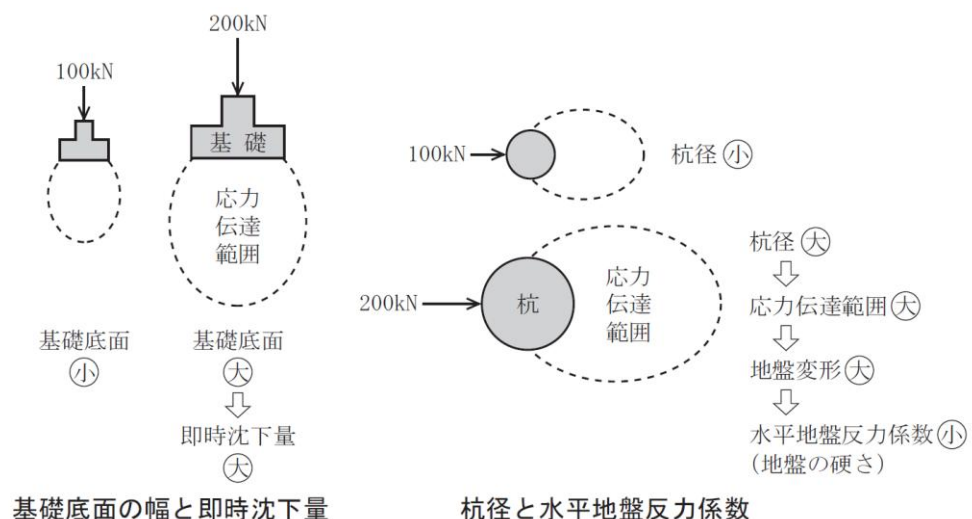
構造

〔全般〕・**力学**から7問出題されました。そのうち、No. 1、2、6は新規問題で得点できなくても差は付きません。定番のNo. 3、4、5、7は確実に得点したい問題です。

- ・**難問**に関して重要なのは、解くのを**後回し**にすることです。大事なことは「解ける問題から解く」ことです。難しい問題に時間を費やしたせいで、解けるはずの問題を解けなかったということがないようにしなければなりません。

〔全般〕・文章問題では、他の科目と同様、新規テーマが増えたわけではありません。**過去問の中で理解が難しい設問を集中的に狙って出題**している印象を受けます。

- ・その典型的な例がNo. 21（基礎）肢1の**杭径と水平地盤反力係数の関係**、肢3の**基礎底面の幅と即時沈下量**の関係です。これらは次図のように応力が及ぶ範囲が広がるといって比較整理して覚えてほしい内容です。



- ・もう一つの典型的な例がNo. 24（免震構造）肢1の**ダンパーの減衰力と上部構造の地震時応答せん断力の関係**です。ダンパーは免震の揺れにブレーキをかける働きをしますので、ダンパーの数を増やし、減衰力を大きくすると、地盤と上部構造の固定が強くなり、地盤との絶縁を図る免震効果に反するため地震時応答せん断力は大きくなるのです。それでも免震ゴムだけでは減衰しないためダンパーが必要なのです。このように**直感で納得して理解することが構造で高得点を取るためには不可欠な学習**です。**丸暗記で対応できるものではありません。**

施工

- 〔全般〕 施工で高得点を取るためのポイントは、①「**施工のイメージをつかむこと**」、②「**数値を覚えること**」の 2 つに集約されます。冒頭で説明した「理解」と「暗記」の両輪です。
- 〔No. 1〕 肢 3 の埋蔵文化財が発見されたときに、施工者に書面にて工事の一時中止などの指示をするのは原則として発注者です。TAC では直前対策「総まとめ講義」で説明したように**工事請負契約の当事者ではない「監理者」のみとなっている規定は基本的にない**のです。これが「理解」するということです。

TAC「総まとめ講義」工事請負契約約款ポイントの例

- ＜ポイント＞
- ・相手方が「発注者」のみとなっている規定は、発注者の意思決定を要する事項(契約の主要条件)。
 - ・相手方が「監理者」のみとなっている規定は、基本的にない。契約の当事者ではないから。
 - ・相手方が「発注者又は監理者」ととなっている規定は、技術的内容に関するもの。

- 〔No. 3〕 肢 2 のアスファルトルーフィングの**縦置き保管**について、TAC では次のような**付録**を用意して関連する内容の比較整理を行っています。
- ・9 月 13 日から始まる「**総合学科本科生 井澤 Plus**」コースではそのような「**合否を分ける問題の宝の山**」である最重要ポイントを「**井澤式比較暗記法**」講義で先取りします。

TAC 施工テキスト付録の例

付録 2. 材料の保管における縦置き・横置き

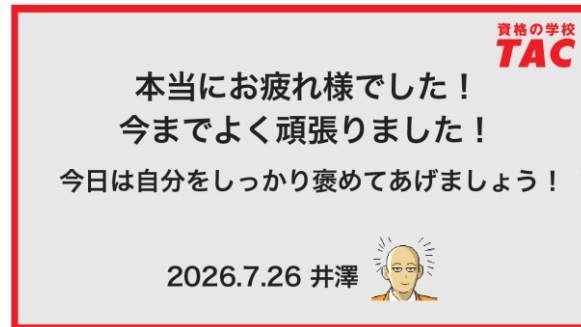
(1) ロール状の材料の保管

- ・ロール状の材料は、原則、縦置き。
- ・ロール状で横置きなのは、ロールカーペットだけ（2～3 段の俵積み）。
ロールカーペットは長いので倒れると危険。また、巻き癖も取りやすい。

		テキスト頁	出題
アスファルトルーフィング	縦置き	282	H3003, H2703
壁紙	縦置き	352	H21
ビニル床シート	縦置き	354	H15
ロールカーペット	横置き（2～3 段）	356	R0703
(参考) タイルカーペット	横置き（5～6 段）	356	H2803

- 〔全般〕 TAC の講義では「これを覚えて」という羅列に留まることなく、受講生の立場に立って「**理解の仕方**」、「**覚え方**」を伝える講義を引き続き丁寧に行っていきます。

講評は以上です。



この総評の著作権は、TAC株式会社または権利者に帰属しており、当社に無断で複製、改変、転載、転用、インターネット上にアップロードする等の著作権を侵害する行為は法律によって禁止されております。